Ⅴ　2022 年度の主要な事業動向

1　2022 年度のトピック

①　「第二期愛知県図書館の基本的な運営方針（2023-2027）」の策定

当館では、文部科学省告示「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に準拠した「愛知県図書館の基本的な運営方針」（期間：2014 年度から 2023 年度）を 2014 年に策定し、すべての県民に役立つ拠点図書館を目指すという目標の下、図書館運営を行ってきた。

同方針の終期は 2023 年度末であったが、近年のデジタル化の急速な進展や社会環境の大きな変化に鑑み、１年前倒しをして、2023 年度を始期とする５年間の「第二期愛知県図書館の基本的な運営方針(2023-2027)」を 2023 年３月に策定した。

今後は、新たな運営方針に基づいて、県域の拠点図書館としての役割を一層果たしていくとともに、県民の「もっと知りたい」に応える知の交流拠点として「新たな知の拠点の形成」を目指していく。

第二期愛知県図書館の基本的な運営方針（2023-2027）

１　期間
　2023 年度から 2027 年度まで（５年間）
２　目標
　新たな知の拠点の形成
　－県民の「もっと知りたい」に応える知の交流拠点を目指して－
３　目指すべき姿
　本運営方針に掲げる目標の実現に向けて、以下の５つを「目指すべき姿」とし、県図書館の事業を展開していく。
　（１）すべての県民の「知りたい」に応える図書館
　（２）情報発信・交流活動の拠点としての図書館【新規】
　（３）ネットワークのハブとなる図書館
　（４）デジタル技術の活用により新たな社会に対応する図書館【新規】
　（５）持続可能なサービス環境を備えた図書館

【新規】は第一期基本的運営方針になかった項目

②　県政 150 周年記念事業

2022 年は、1872（明治５）年 11 月 27 日に現在の愛知県が誕生してから 150 周年の記念の年であった。当館では、県民とともに 150 年を振り返り、愛知のことをもっと知ってもらうために記念事業を実施した。

ア　企画展示

３月 17 日（木）から５月 11 日（水）まで、１階エントランス Yotteko（ヨッテコ）で「愛知県図書館報あゆち『愛知が舞台』と県政 150 周年」と銘打った企画展示を開催した。館報あゆち 22 号『愛知が舞台』(2022 年３月刊行）で取り上げた所蔵資料の紹介や県政 150 周年のポスター掲示、グッズの配布を行った。また、３月 17 日（木）から６月８日（水）まで開催した地域資料展示「愛知県事始め（２）愛知県の明治」では、明治時代の愛知県の様子を伝える貴重書庫等の資料を展示した。

展示「愛知県図書館報あゆち『愛知が舞台』と県政 150 周年」(3/17～5/11)

このほか、県企画課と連携した「愛知県政 150 周年紹介パネル展」と「『わたしの住むまち　あいちの未来』絵画コンクール入賞作品展」、愛知県の歴史を紹介する本を展示した「愛知県史展」、県政 100 周年（1972 年）当時に刊行された雑誌等を展示した「50 年前の雑誌を見る」、150 年前の科学技術に関する本を展示した「150 年前の科学技術」、愛知県内の建築史に関する資料を展示した「愛知県の建物 150 年」等の企画展示を行った。

イ　イベント

県政 150 周年連携イベントとして、「愛知県の建物 150 年」と「あいちの歴史資料をさぐる」を開催した。

「愛知県の建物 150 年」は、学術や技芸の専門家に講演いただく「リベラルアーツカフェ 2022」の第１回として、７月 30 日（土）、名古屋市立大学名誉教授の瀬口哲夫氏を講師に迎え開催した。

国の重要文化財に指定されている愛知県庁本庁舎を始め、明治大正昭和前期に建てられた愛知県有施設の建物に焦点を当て、近代建築史とまちづくりについて講演いただいた。参加者は 58 人であった。

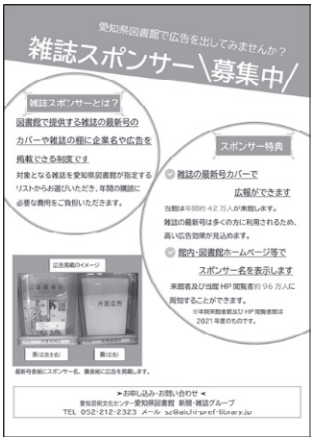
12 月 17 日（土）に愛知図書館協会との共催で開催した講演会「あいちの歴史資料をさぐる」では、愛知県立大学教授の丸山裕美子氏、元県史編さん室主幹の加藤規博氏のお二方を講師として、愛知県に残る貴重な歴史資料について、2023 年の大河ドラマで注目される徳川家康や、2019 年度に編さん事業が終了した『愛知県史』にも関連させながら解説をいただいた。参加者は 93 人であった。（「Ⅸ 資料　２ 展示及び講演会等」参照）

ウ　館報あゆち

県政 150 周年に関連した刊行物として、館報あゆち 22 号『愛知が舞台』（2022 年３月）、23 号『図書館と学ぶ愛知県事始め』（2022 年 10 月）を刊行した。

③　雑誌スポンサー制度の開始

2023 年２月 28 日（火）に「愛知県図書館雑誌スポンサー制度」を開始した。企業、団体等からスポンサーを募集し、当館が指定するリストの中から選んだ雑誌を提供していただく制度である。年間の購入代金を負担するスポンサーには、当該雑誌の最新号カバー等を広告スペースとして活用していただくため、知名度向上のメリットがある。今後はこの制度も活用しながら、雑誌等の充実を図っていく。



雑誌スポンサー制度紹介ポスター

２　図書等の収集

①　図書

2022 年度は、12,735 冊の図書を受け入れた（購入：和書 5,801 冊、洋書 36 冊、計 5,837 冊。寄贈:和書 6,804 冊、洋書 88 冊、計 6,892 冊。県労働福祉課からの管理換え：６冊）。購入による受入冊数は、2009 年度の 21,180 冊をピークとして、図書購入費の減少に比例して漸減しており、2022 年度は前年度より若干増加したものの、ピーク時の 28%となる 5,837 冊だった。厳しい予算状況の中、拠点図書館として県内市町村立図書館のニーズに応え、併せて県立図書館として特徴的なコレクションを構築するために、「資料収集方針」及び「資料選択基準」に基づき、「ものづくり文化」、「地域」及び「健康・医療」の分野を中心に慎重な選書を行い収集した。

2022 年度末現在での図書蔵書冊数は 1,201,076 冊である（2021 年度末：1,189,001 冊＋受入：12,735 冊－除籍：660 冊）。

②　新聞・雑誌、規格及び加除法規類

新聞・雑誌　2022 年度当初の継続受入資料は、新聞 84 紙、雑誌 1,734 タイトルで、うち新聞 33 紙、雑誌 1,094 タイトルは寄贈によるものである。『日刊工業新聞』電子版（ＣＤ-ＲＯＭ、2003.4～）も所蔵している。他に『名古屋タイムズ』も電子版（1946.5～2008.10）を所蔵している。購入雑誌 14 タイトルについて、2022 年度中の休廃刊等により翌年度への継続を中止した。

規格　2022 年度も内容の更新を継続した規格は、『日本産業規格』（Japanese Industrial Standards：ＪＩＳ）１タイトルである。

加除法規類　2022 年度当初、内容の更新を継続した加除法規類は『現行法規総覧』、『愛知県法規集』、『名古屋港管理組合例規集』の３タイトルである。

③　その他の紙資料（紙芝居、電話帳、地図（一枚もの））

紙芝居は 2022 年度新規の受入れは 59 点で総数は 3,529 点。全国の電話帳は 2022 年度新規に 1,210 冊を受け入れた。国土地理院発行の地形図や都市地図など一枚ものの地図は、2022 年度新規に 389 点を受け入れた。

④　視聴覚（Audio Visual：ＡＶ）資料

教養や文化面で資料価値の高い資料を中心に収集しており、2022 年度はＤＶＤ91 点、ＣＤ174 点を受け入れた。このうち、文化財の記録映像など 124 点が寄贈によるものである。2022 年度末現在での所蔵総数は、ＤＶＤ始め映像資料 6,349 点、ＣＤ始め録音資料 18,322 点である。

⑤　マイクロ資料（マイクロフィルム、マイクロフィッシュ）

2021 年刊行分の『中日スポーツ』について、マイクロフィルム 12 リールを受け入れた。

⑥　電子資料（ＣＤ-ＲＯＭ等）

2022 年度は受け入れはなかった。2022 年度末現在、『愛知県議会会議録 明治 26 年』（ＤＶＤ-ＲＯＭ）始め 1,325 タイトル 1,411 枚を所蔵している（なお、「電子資料」には、図書等の付録であるものは含んでいない）。

⑦　電子書籍

2022 年度は新たにオーディオブック 111 冊を含む 439 冊を購入し、2022 年度末現在、6,111 冊の閲覧サービスを提供している。

⑧　視覚障害者用資料

2022 年度に視覚障害者用に製作した録音図書デイジー（Digital Accessible Information SYstem：ＤＡＩＳＹ；アクセシブルな情報システム）の数は 27 タイトルである。購入５タイトル、寄贈 15 タイトルを含め 47 タイトル増加し、2022 年度末現在のデイジーの所蔵総タイトル数は 1,157 タイトルとなった。このほか 2022 年度に、点字図書 11 タイトル、録音図書（カセット）１タイトル、マルチメディアデイジー29 タイトルが増加した。

⑨　商用データベース

レファレンス等の業務及び利用者の閲覧用に、次の７種の商用データベースを導入し、情報提供の高度化、迅速化を図っている。

名称	内容
「日経テレコン 21（図書館パック）」	日経４紙（『日本経済新聞』朝・夕刊、『日経産業新聞』、『日経流通新聞』、『日経金融新聞』）の記事検索のほか、企業情報や人事情報が検索可能 *収録範囲：1975 年～（一部記事は、見出しのみ）
朝日新聞記事データベース「朝日新聞クロスサーチ」	1879 年～1999 年に『朝日新聞』に掲載された新聞記事の紙面イメージ検索と、1985 年以降の『朝日新聞』記事全文検索が可能
「中日新聞・東京新聞記事データベース」	『中日新聞』朝・夕刊（1987 年４月～）、『東京新聞』朝・夕刊（1997 年４月～）それぞれの最終版の主要記事を蓄積。中部地方各県版、愛知県、三重県、岐阜県内の全地方版（1996 年１月～）をカバー
毎日新聞記事データベース「毎索」	1872 年創刊号から現在までの『毎日新聞』に掲載された新聞記事を日付やキーワードで検索可能。また、創刊号から 1999 年までの紙面も収録
読売新聞記事データベース「ヨミダス歴史館」	1986 年９月から読売新聞に掲載された新聞記事をキーワード、全文及び日付を指定して検索可能
「ＴＫＣローライブラリー」	判例、法令が検索可。1875 年の大審院判例から今日までに公表された判例を、網羅的にフルテキストで収録。また、「現行日本法規」に基づいた法令も収録
「官報情報検索サービス」（官報インターネット版）	官報（本紙、号外、政府調達公告版、資料版、目録）の日付・記事検索が可能。本文も収録 *収録範囲：1947 年５月３日～当日分まで

「朝日新聞クロスサーチ」、「中日新聞・東京新聞記事データベース」、「毎索」、「ヨミダス歴史館」及び「官報情報検索サービス」は２階、「日経テレコン 21」及び「ＴＫＣローライブラリー」は４階の専用端末で利用に供している。

３　来館者へのサービスの状況

①　入館者、個人貸出

2022 年度の入館者数は 413,568 人（前年度比 98.9%）、１日平均の入館者数は 1,467 人（前年度比 98.9%）である。2022 年度末現在の有効登録者数は 37, 428 人（2022 年度新規登録者 11,619 人）で、郵便による利用カード発行は、31 人（前年度 461 人）の申込みがあった。また、2022 年 1 月 26 日（水）から開始したオンライン利用登録者数は 961 人（前年度 453 人）であった。

図書等の個人貸出点数は、348,646 冊･点（前年度比 89.0%）、1 日平均は 1,236.4 冊･点（前年度比 89.1%）であり、資料への予約数は 44,037 冊･点（前年度比 88.2%）で、このうち利用者自身によるオンライン予約は 40,288 冊・点（前年度比 88.5%）であった。

②　児童図書室のサービス

2022 年度末現在、開架に図書 35,362 冊、閉架も含めると 89,785 冊、雑誌（児童向け以外含む）は全て開架で 31 タイトルを所蔵している。児童図書の貸出冊数は、82,702 冊（前年度比 92.6%）。

刊行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』（月刊）とおすすめ本を紹介する『児童図書室だより』（季刊）を発行した。

冬のおたのしみ会(12/23)

テーマ展示では、「はじまりの本」「エリック・カールを偲んで」「2021 年をふりかえって」「妖怪の本」「クリスマスの本」「干支（うさぎ）の本」など２か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。

「おはなし会」については、あかちゃん向けを 21 回（参加者 223 人）、幼児・小学生向けを各 22 回（参加者 342 人）実施した。

また、職員が読み手となる「冬のおたのしみ会」を 3 年ぶりに開催し、12 名の参加があった。

③　視覚障害者資料室のサービス

視覚障害者への対面朗読は、オンラインを含めた利用者数が延べ 131 人（前年度比 104.0%）、対応した朗読者数が延べ 89 人（前年度比 83.2%）、朗読時間数が 193.17 時間（前年度比 88.3%）であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料の貸出が、個人 423 タイトル（前年度比 94.0%）で、他施設から借り入れた資料の提供数は 3,770 タイトル（前年度比 90.4%）であった。自館資料の他施設への貸出は、243 タイトル（前年度比 91.7%）であった。

国立国会図書館のデータ送信事業として 2023 年３月までにアップロードした資料は 732 点で、2022 年４月から 2023 年３月のダウンロード数は、8,843 件であった（2023 年４月国立国会図書館からの報告による）。

当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」は、点字・録音図書の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、電子図書館の機能もあることから、利用者個人の「サピエ」への直接利用もサポートしている。国立国会図書館とサピエとは連携しており、当館が国立国会図書館へアップしたデータも、サピエからダウンロードすることができる。2022 年度は新たに当館を経由して３人が登録し、総数は 78 人となった。

心身障害者へのサービスとして実施している郵送貸出の数は、632 点（前年度比 81.2%）であった。

④　ＡＶ室のサービス

視聴覚資料（ＣＤ、ＤＶＤなど）の貸出は 55,120 点（前年度比 92.5%）。

ＡＶ室展示として、「村上春樹の音楽をめぐる冒険」「ビートルズ図書館、開館中！」「清張への旅」「クリスマス展」などテーマを決めて定期的にＡＶ資料（図書も含む）の展示を行った。

所蔵資料を上映する名画鑑賞会は、感染症拡大防止のため 2020 年２月 21 日（金）以降休止している。2022 年度は、「AV 室展示「清張への旅～松本清張没後 30 年企画～」関連上映会」として、「最後の自画像」を５階大会議室にて上映した。

AV 室展示「清張への旅」(10/14～1/11)

⑤　各コーナーの状況

県立図書館としての役割や県行政を推進する観点から、次のテーマについて集約したコーナーを設置している。

ア　地域資料

地域資料展示「愛知県事始め（２）愛知県の明治」(3/17～6/8)

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政機関の刊行物、その他本県に関する資料を収集している。2022 年度末現在、開架に図書 40,974 冊、受入継続雑誌 315 タイトル、閉架も含めると図書 88,520 冊（前年度比 2,389 冊増）、雑誌 1,365 タイトル（前年度比５タイトル増）を所蔵している。

また、地域資料について来館者の方に知っていただくため、地域資料の展示をコーナーで実施している。2022 年度には「愛知県事始め（２）愛知県の明治」、「ひろがる鉄道」というテーマでの展示を行った。

イ　ビジネス情報コーナー

起業や仕事術などビジネスに役立つ内容の資料、就職関係の資料を集約したビジネス情報コーナーを 2005 年３月に開設し、2016 年度にはその一角に社史コーナーを設けた。2022 年度末現在、図書約 5,700 冊と受入継続雑誌 33 タイトルを配置している。

また、2022 年度は企画展示「事業承継・起業を応援します！」を日本政策金融公庫と共催で実施した。展示期間中には、関連セミナー「人生 100 年ライフシフトの時代 起業は働く選択肢の一つ」を開催し、オンライン同時配信も行った。

ウ　ティーンズコーナー

中学生・高校生に読書により親しんでもらうため、ティーンズコーナーを 2005 年３月に開設した。2022 年度末現在約 7,500 冊を配置している。

ティーンズコーナーのおすすめ図書を紹介してもらうために、利用者自身にイラストなどで飾ったカードを作成してもらう参加型企画「てこぽん」（**テ**ィーンズ**コ**ーナー**ポイン**ト Get 大作戦!）を継続的に開催し、利用促進を図っている。2022 年度は夏休み期間に、利用者の投票により応募作の中から大賞を選ぶ「第 11 回てこぽん大賞」を実施した。

エ　多文化サービスコーナー

多文化共生社会への意識づくりと外国人県民の方への日本語教育等を支援するため、2006 年３月に中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語で書かれた図書や日本語学習用の図書を備えた多文化サービスコーナーを開設した。2019 年度には、コーナー内に外国人児童のための「絵本コーナー」（2022 年度末現在、約 570 冊）を設置した。2022 年度末現在、約 5,700 冊を配置しており、文学や日本語学習用の図書を中心として安定した利用が続いている。

オ　東三河コーナー

「愛知県図書館と東三河地域の市町村及び観光団体との地域振興に係る情報発信の連携・協力に関する協定」に関わる団体のほか、県東三河総局、東三河広域連合等と連携し、東三河の観光情報を中心に最新パンフレットや地域情報誌（タウン誌）、イベントのチラシなど旬の情報を提供している。2022 年度には企画展示「第 11 回穂っとネット東三河フォトコンテスト入賞作品展」を実施した。

カ　観光情報コーナー

県観光振興課、東三河８市町村を除く 46 市町村の観光関係当局及び地域の観光協会等と連携し、東三河を除いた愛知県全市町村の観光情報等を提供することを目的として、2018 年 11 月に開設した。主に観光パンフレットや地域情報誌（タウン誌）、イベントのチラシなどを提供している。2022 年度は、企画展示「二度目の旅は図書館から～「せとでん」に乗って図書館へ行こう」、講演会「「お堀電車」と呼ばれた伝説の電車」を実施した。

講演会「「お堀電車」と呼ばれた伝説の電車」（1/27）

⑥　情報提供サービス

ア　レファレンス

レファレンス件数は 25,725 件（前年度比 95.0%）であった。内訳はカウンター等でのレファレンスが 17,710 件、電話が 7,656 件、文書（メール、ファックスによるものを含む。）によるものが 359 件であった。

国立国会図書館が提供する「レファレンス協同データベース事業」にも 2004 年から参加しており、2022 年度末現在、441 件のレファレンス事例を登録・公開している。

イ　愛知県図書館調べ方ガイド

資料や情報の探し方について、テーマごとに案内する「調べ方ガイド」（Ａ４判、両面）を発行している。館内で配布するとともに、当館の Web サイトでも公開している。2022 年度中には「新聞記事の探し方」の内容を改訂した。2022 年度末現在 22 点の「調べ方ガイド」を公開している。

ウ　インターネット情報の提供等

2022 年度の館内でのインターネット情報の閲覧用端末や、国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス及び商用データベース等を利用する専用端末の利用人数は、延べ 4,658 人（前年度比 39.5%）であった。それぞれの詳細は次のとおりである。

㋐　**インターネット情報**　当館２階で提供しているインターネット情報の閲覧用端末の利用人数は、2022 年度 2,504 人（前年度比 25.9%）であった。なお、インターネット情報の閲覧用端末は、館内でのフリーWi-Fi 運用開始等を踏まえて 2022 年３月の整理休館後、３台から１台にして運用している。同時に国立国会図書館デジタルコレクションや商用データベース等を利用できる端末を５台から８台に増設した。

㋑　国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス

国立国会図書館デジタルコレクション　国立国会図書館のデジタル化資料のうち、インターネットで一般公開されておらず、絶版等の理由で入手困難な資料、約 150 万点が２階の専用端末で閲覧・複写できる（2015 年５月サービス開始）。2022 年度の利用人数は延べ 298 人（前年度比 57.9%）であった。

歴史的音源（れきおん）　歴史的音源は 1900～1950 年頃の SP 盤等のデジタル化音源で、インターネット公開している音源約 6,000 点と、参加図書館に限定して提供される資料約 43,000 点を２階の専用端末で聴取できる（2012 年３月サービス開始）。2022 年度の視聴タイトル数は延べ 158 タイトル（前年度比 92.4%）であった。

㋒　**商用データベース等**　当館の２階及び４階の専用端末で提供している商用データベースの 2022 年度の利用人数は 1,818 人（前年度比 114.0%）であった。（２-⑨参照）また、『名古屋タイムズ』及び『日刊工業新聞』電子版の利用人数は 38 人（前年度比 86.4%）であった。

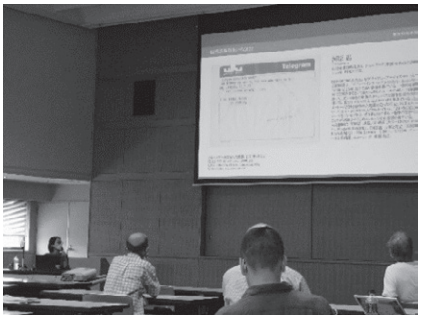
⑦　フリーWi-Fi の運用

無料公衆無線 LAN サービス「Aichi_Free_Wi-Fi」を全館で運用している。2022 年度の利用は延べ 95,093 回であった。

⑧　企画展示・講演会等の実施

利用者と資料をつなぎ、当館の利用を促進するとともに、図書館と資料を知ってもらうため、資料展示や関連講演会等の企画を実施している。2022 年度には、１階エントランス Yotteko（ヨッテコ）等を活用し、資料の展示を 64 回実施した。

講演会では、県美術館、あいち朝日遺跡ミュージアムと連携した「文化芸術に関する連続講座」を２回（参加者 110 人）、学術や技芸の第一線を一般向けに解説する「リベラルアーツカフェ」を３回（参加者 116 人）実施した。そのほか、「認知症サポーター養成講座」（参加者 12 人）、愛知県政 150 周年連携イベント「あいちの歴史資料をさぐる」（参加者 93 人）、「『お堀電車』と呼ばれた伝説の電車」（参加者 70 人）、「人生 100 年ライフシフトの時代起業は働く選択肢の一つ」（参加者 50 人）を開催した。また、「久屋ぐるっとアート」に参加し、愛知芸術文化センターにおいて「愛知県図書館報『あゆち』23 号「特集 図書館と学ぶ愛知県事始め」パネル展」を行った。（詳細「Ⅸ 資料２ 展示及び講演会等」参照）



「文化芸術に関する連続講座 2022」第１回
「国際芸術祭「あいち 2022」のちょっとディープな楽しみ方」（8/21）

4　インターネットを利用したサービスの状況

①　Web サイトのアクセス状況

当館では Web サイトを 1996 年 10 月１日に開設、Web サイトでの蔵書検索を 2001 年３月６日に開始した。

2022 年度の当館 Web サイトのトップページへのアクセス数は 1,207,288 回（前年度比 125.8%）であった。また、愛知県図書館の蔵書検索ページのアクセス数は 2,364,940 回（前年度比 113.4%）であった。トップページのアクセス数に比して高い数値を示していることから、トップページを経ずに直接蔵書検索を行う利用者が相当数いると考えられる。携帯サイトの総ページビューは 15,933 ページ（前年度比 68.0%）であった。

②　横断検索「愛蔵くん」の利用状況

横断検索「愛蔵くん」には、2022 年度末現在、愛知県図書館、東海北陸県立図書館（５館）、県内市町村立図書館・公民館図書室（50 館）及び専門図書館（３館）が参加しており、横断検索のアクセス数は 568,816 回（ＰＣからのアクセスのみ。スマートフォン等携帯端末を除く。）（前年度比 113.0%）であった。

③　Web サイトでのデジタル化資料の提供

当館が所蔵する貴重な地域資料の効率的な利用のため、デジタル化を 2003 年から順次推進している。2022 年度末現在、「絵図の世界」（758 点）、「絵はがきコレクション」（108 セット）、「貴重和本デジタルライブラリー」（236 タイトル）、「画像コレクション」（29 点）の４コレクションを Web サイトに公開している。

当館では、引き続きデジタル化及び書誌データの整備を進めており、2022 年度は「貴重和本デジタルライブラリー」３タイトル、「画像コレクション」14 点の整備が完了した。今後も順次タイトルの増加を図っていく。

④　ナクソス・ミュージック・ライブラリー

音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」（2014 年４月から開始。クラシックを中心として約 200 万曲以上、同時 20 アクセス）の 2022 年度の利用件数は、総計 21,551 件（前年度比 87.2%）であった。

⑤　電子書籍サービス

2022 年度のアクセス数は 68,633 件（月平均 5,719 件、前年度比 80.3%）であった。

⑥　チャットボットの実証実験

2022 年 11 月 1 日から 2023 年 1 月 31 日まで Web サイトに利用案内のチャットボットを実装する実証実験を実施した。

5　遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度（2012 年度開始）の対象自治体は、東三河地区（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）、西三河地区（岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市、高浜市、幸田町）、知多地区（半田市、常滑市、阿久比町、南知多町、美浜町、武豊町）の 21 市町村で、2022 年度の利用は 2,194 冊・点（前年度比 102.3%）であった。

6　館内職員研修の実施

2017 年度から、県政の一端を担う県図書館職員の養成を目的に、毎月第２木曜日の休館日を中心に開催している。当館職員が講師を務めるほか、研修内容に即した講師を招いて実施している。2022 年度の実施状況は次のとおりである。

内容	実施日	参加者
公共図書館における電子書籍サービス	５月 12 日（木）	55 人
資料補修研修	６月９日（木）	６人
コンプライアンス（グループごとに実施）	６月中	ー人
愛知県公立図書館長協議会 2021 年度 YA 連絡会研修の動画視聴	９月中	38 人
接遇のヒント	10 月 13 日（木）	49 人
防災訓練	11 月 10 日（木）	80 人
図書館の諸問題	11 月 10 日（木）	58 人
著作権法改正に伴う図書館等公衆送信サービスについて	12 月８日（木）	58 人
愛知県公立図書館長協議会 2022 年度第 2 回研修会の動画視聴	１月中	39 人
英会話	２月９日（木）	53 人
第二期愛知県図書館の基本的な運営方針について	３月９日（木）	52 人
司書職のキャリアアップガイドについて	３月 15 日（水）	37 人

計 12 回　参加者 525 人

7　職場体験・インターンシップ・図書館実習及び見学の受入れ

中高生等の職場体験・インターンシップ・職員の業務体験の受入れ７件 16 人、図書館関係者、学生等の見学 11 件 150 人、合計 18 件 166 人を受け入れた。

8　図書館を応援していただく取組

①　図書館ボランティア

ア　図書館サポーター

2022 年度の「おはなし会サポーター」の登録は 24 名。毎月第１日曜日、第３土曜日、第２・４水曜日に子ども向けの絵本の読みきかせや紙芝居、わらべうた、ストーリーテリングなどの実演を行っている。

「資料補修サポーター」には、２名の登録があり、破損・汚損した図書の補修を行った。

イ　朗読協力員

2022 年度の「朗読協力員」の登録は 41 名で、対面朗読（予約制）や利用者のリクエスト等に

応じるための録音図書の作成などの活動を行った。また、５～７月にかけて朗読協力員養成講座（中級）を開催し 11 名が受講した。

② 寄附（「あいち Book サポーター」制度）

2022 年 2 月から開始した「あいち Book サポーター」には、企業・団体６件、個人８件から合計 331 万円分のお申し出があり、図書 1,319 冊、紙芝居 29 組、マルチメディアデイジー18 枚のほか、読書支援機器プレクストーク１台、紙芝居舞台４台、大型絵本用バッグ２点を寄附していただいた。

9 施設・設備の整備及び更新

開館後 30 年以上が過ぎ、設備の老朽化が進んでいること、また、快適な図書館の利用環境を整備する観点から、簡易な修繕を随時行っているほか、機器の取替が必要な修繕は施設設備整備計画を立て、予算化されたものから順次実施している。

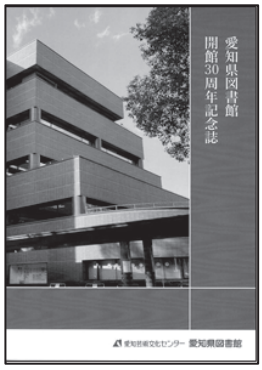
2022 年度には、５階防犯カメラ増設工事（7/20～9/30）、制御・非常照明用直流電源装置更新工事（8/5～3/15）及び点字ブロック延長設置工事（2/1～3/15）を実施した。

10 刊行物、広報

① 刊行物

当館の事業報告書である『事業年報』(1992～) の 2022 年度版を 10 月に 500 部発行した。また、当館のサービスや所蔵資料の活用法などを紹介する館報『あゆち』（1991～、創刊当初から 2005 年までの誌名は『年魚市』）第 23 号（特集：図書館と学ぶ愛知県事始め）を 10 月に 8,000 部刊行した。

あゆち第 23 号「図書館と学ぶ愛知県事始め」



愛知県図書館
開館 30 周年記念誌

また 2023 年 3 月には、2021 年 4 月に開館 30 周年を迎えたことを記念し、当館のこれまでのあゆみをまとめた『愛知県図書館開館 30 周年記念誌』を 500 部刊行した。

それぞれ冊子版を県内外の公共図書館や関係機関等に配布するとともに、電子版を Web サイトに掲載している。『あゆち』については、館内で来館者にも配布している。

② 広報

ポスターやチラシを使い企画展示の情報等当館の活動について広報するほか、マスメディアへも情報提供を積極的に行っている。2022 年度は、ブロック紙及び全国紙５紙（中日、朝日、毎日、読売、日経の各紙）に 17 回、その他地方紙やタウン誌に 11 回、テレビ・ラジオに７回等、合計 36 回当館の活動等が紹介された。（詳細「Ⅸ 資料　３ 広報の結果」参照）

また、当館の Web サイト（https://www.aichi-pref-library.jp/）では、利用案内、企画展示の情報、館内の案内を始め様々な情報を掲載し、随時更新している。2011 年３月から開館 20 周年にあわせ Twitter（現「X」）の公式アカウントを開設し、2017 年度からは Facebook、メールマガジンの配信を加えた。2020 年５月からは YouTube に愛知県図書館チャンネルを開設し、動画配信も開始した。

11 市町村立図書館等への支援・サービスの状況

① 協力貸出の実施

2022 年度の当館から県内・県外の図書館等への協力貸出数は、全体で 15,602 冊・点（前年度比 92.9%）であった。このうち、雑誌の協力貸出（発行から１年以上経過した雑誌のバックナンバーを借受け館での館内閲覧に限り２週間貸出）冊数は 62 冊（前年度比 100.0%）であった。

② 相互貸借の支援

2022 年度の当館を経由した東海・北陸地区（岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県及び本県）内の相互貸借冊数は、全体で 44,529 冊（前年度比 93.8%）であった。このうち県内図書館同士の相互貸借は 42,054 冊（東海・北陸地区全体の 94.4%）であった。

③ 貸出文庫の実施

図書館未設置町村に図書や紙芝居を貸与する貸出文庫を実施している。図書 500 冊を上限に１年間貸与する基本図書と、図書 80 冊、紙芝居７組を３か月間貸与する流通図書の２種類を組み合わせて運用しており、2022 年度は図書館未設置７市町村のうち４町村（南知多町、設楽町、東栄町、豊根村）６施設に計 2,050 冊・組を貸与した。

④ 県立学校（図書館）の支援

学校での読書活動及び学習活動支援のため貸出サービスを実施している。2017 年度からは、県立学校に対して地元の市町村立図書館を経由する方式での貸出サービスを開始した。サービス対象校については順次拡大し、2022 年度末には 22 校となった。2022 年度中は、このうち 14 校に対し 1,451 冊を、この方式で貸出した。

⑤ あいちラストワン・プロジェクト

県内で１図書館のみが所蔵する希少資料（ラストワン）を将来にわたって確実に保存し、利用できるよう県内市町村立図書館と協同して取り組んでいるプロジェクトで、2013 年１月から試行し、2014 年 10 月から実施している。県内の図書館を設置する 47 市町村全てと常滑市が参加しており、2022 年度は、市町村立図書館において保存が困難とされた 1,392 冊の希少図書の県図書館への搬入を許可し、順次整理している。

⑥ 図書館職員・関係者向け研修の実施

県立図書館として、図書館職員の資質向上を目的に、当館が単独で、また当館に事務局を置く愛知県公立図書館長協議会及び愛知図書館協会等と連携・協力して、県内の図書館職員・関係者向けに研修を実施している。2022 年度に実施した研修は次のとおりである。

ア 図書館協力担当者新任研修会

協力貸出・相互貸借業務を新たに担当する職員を対象とした研修で、例年５月から６月にかけての時期に愛知県図書館で開催している。2022 年度は６月９日（木）に開催し、56 人が参加した。

イ 愛知県公立図書館長協議会の研修

同協議会が実施する研修は、公立図書館職員としての知識や技術の習得を目的に、公開講座方式の研修にワークショップなど参加型を組み込んだものを主としている。2022 年度は以下のとおり研修を４回、ヤングアダルト（ＹＡ）サービス連絡会による研修を１回実施した。

内容（講師）	開催時期	参加者
第１回：「図書館とともにつくる地域の未来」（吉成信夫氏） 講演及びワークショップ	５月 25 日（水） （集合研修＋ 録画配信）	51 人 集合 31 人 配信 20 人
第２回：「図書館におけるクレームへの法的対応～利用者との良好な関係構築に向けて」（鈴木智洋氏） ※愛知図書館協会と共催	９月７日（水） （集合研修＋ 録画配信）	110 人 集合 47 人 配信 63 人

内容（講師）	開催時期	参加者
ＹＡサービス連絡会による研修※: テーマ「ＹＡと図書館の関わり方」 講演:「高校生のリアル～中高校生の身近な図書館に！」（木下通子氏） 事例報告:「金城学院大学図書館学生ボランティア LiLian の活動～公共図書館連携活動を中心に～」（西尾十和子氏） ※愛知県公立図書館長協議会に設置されたヤングアダルト（ＹＡ）サービス連絡会による研修 ※愛知図書館協会と共催	11 月 4 日（金） （集合研修＋同時配信＋録画配信） （集合研修は愛知県公立図書館長協議会会員のみ）	73 人 集合 30 人 配信 43 人
第３回：テーマ「電子書籍」 講演:「電子書籍と公共図書館～アフターコロナの電子図書館サービス」（植村八潮氏） 事例報告:「電子図書館サービスの取組み～事例発表～」（亀山並枝氏）	12 月 2 日（金） （集合研修＋録画配信）	70 人 集合 22 人 配信 48 人
第４回：テーマ「著作権（公衆送信）」 講演:「令和 3 年著作権法改正における図書館関係の権利制限規定の見直しについて」（村井麻衣子氏） 事例報告：「図書館資料の公衆送信サービスへの対応について」（成田克己氏）	2 月 10 日（金） （集合研修＋録画配信）	76 人 集合 29 人 配信 47 人

計５回　参加者 380 人

ウ　愛知図書館協会の研修

同協会が実施する研修は、実務への応用を主眼に、講義と演習を組み合わせた連続講座形式のものを主としている。例年実施している児童サービス研修は、集合研修の連続講座のほか、集合研修及び同時配信による講演形式の特別講座を実施した。またレファレンスサービス研修は、集合研修及び録画配信の拡大講座のほか、演習をオンライン講義や課題添削などにより実施した。

内容（講師）	開催時期と形式	参加者
児童サービス研修（特別講座） 講演:「「子どもと本をつなぐ」ために取り組んできたこと」（大島由美子氏）	6 月 16 日（木） （集合研修＋同時配信）	51 人 集合 25 人 配信 26 人
児童サービス研修（連続講座）：児童サービスに必要な知識と技術に関する講義と演習（神谷美恵子氏、岩月ゆり氏、浦野唯氏、金子愛氏、児玉陽子氏、道山由美氏、小此木ひとみ氏、杉山郁子氏、市川祐子氏、川島桂子氏、野々川佳代氏）	6 月 23 日（木） 7 月　8 日（金） 9 月　9 日（金） 10 月 27 日（木）	12 人
レファレンスサービス研修（拡大講座） 講演：「「図書館ファン」をつくる「提案型レファレンス」のすすめ～利用者とのコミュニケーション術から、要望以上の結果の出し方まで」（入矢玲子氏）	10 月 14 日（金） （集合研修＋録画配信）	101 人 集合 30 人 配信 71 人
危機管理研修 講演：「図書館におけるクレームへの法的対応～利用者との良好な関係構築に向けて」（鈴木智洋氏） ※愛知県公立図書館長協議会と共催	9 月 7 日（水） （集合研修＋録画配信）	110 人 集合 47 人 配信 63 人

内容（講師）	開催時期と形式	参加者
レファレンスサービス研修（演習）： 課題添削とオンライン講義を組み合わせた通信講座：「社会科学のレファレンス」（齊藤誠一氏）、「医療・健康情報のレファレンス」（中島ゆかり氏）、「芸術分野のレファレンス」（山本宗由氏）	10 月～12 月 計３回 （課題添削＋ オンライン講義）	30 人
ＹＡサービス連絡会による研修※： テーマ「ＹＡと図書館の関わり方」 講演：「高校生のリアル～中高校生の身近な図書館に！」 （木下通子氏） 事例報告：「金城学院大学図書館学生ボランティア LiLian の活動～公共図書館連携活動を中心に～」 （西尾十和子氏） ※愛知県公立図書館長協議会に設置されたヤングアダルト（ＹＡ）サービス連絡会による研修 ※愛知県公立図書館長協議会と共催	11 月４日（金） （同時配信＋ 録画配信） （集合研修は愛知県公立図書館長協議会会員のみ）	22 人 （愛知図書館協会会員枠での参加人数）
児童サービス研修（ステップアップ講座）： 紙芝居実演（道山由美氏）	12 月９日（金）	10 人
図書館システム研修 講演：「図書館システムに求められる機能と仕様書の作成」 （奥野吉宏氏）	２月 15 日（水） （同時配信＋ 録画配信）	62 人
情報セキュリティ研修 講演：「図書館における情報セキュリティ対策」 （鈴木春洋氏）	３月２日（木） （集合研修＋ 録画配信）	87 人 集合 56 人 配信 31 人

計 14 回　参加者 485 人

⑦　会議の開催、講師の派遣及び図書館訪問

ア　図書館協力担当者会議及び貸出文庫担当者会議の開催

県内市町村立図書館及び公民館図書室等の担当者による連絡、調整及び意見交換のための会議を実施している。例年２月から３月頃に開催しており、2022 年度は３月３日（金）に開催した。

イ　講師の派遣及び図書館訪問

2022 年度は、県内外で実施された図書館や関係団体が主催する研修会等へ、講師や委員として当館から計 20 件、職員 28 人（前年度、23 件、29 人）を派遣した。また、情報交換や意見聴取のために延べ 23 人（前年度 31 人）の当館職員が市町村立図書館を訪問した。

Ⅵ　県内公共図書館の動向と関係機関・関係団体

１　県内公共図書館の動向

①　図書館の設置

2023 年４月１日現在の県内の図書館設置市町村は 47（37 市９町１村）、未設置市町村は７（常滑市、豊山町、大治町、南知多町、設楽町、東栄町、豊根村）で、図書館設置率は 87.0％（47/54 市町村）である。2022 年 12 月５日から、江南市立図書館が新築移転準備のため休館し、2023 年４月１日に布袋駅東複合施設内に移転開館した。また、2023 年３月 31 日をもって、高浜市立図書館が「高浜市やきものの里かわら美術館」及び「いきいき広場」への図書館機能移転のため休館した。「かわら美術館」は 2023 年４月１日に「高浜市やきものの里かわら美術館・図書館」に名称変更し、図書館機能については、７月 22 日にオープンした。

②　図書館の運営

県内で図書館業務に指定管理者制度を導入している公共図書館は全 96 館（分館含む）中 30 館で、

その内訳は図書館業務全般への導入が 26 館、施設管理のみ導入が４館（当館含む）である。2023 年度から新たに、名古屋市図書館分館４館が、図書館業務全般に指定管理者制度を導入した。また、図書館設置自治体（47）のうち、１県１市（２館）が首長部局の所管する図書館で、５市（10 館）では、地方自治法に基づく補助執行により、首長部局が図書館の運営を担当している。

２　関係機関

愛知県教育委員会　社会教育及び学校教育に関する事務事業を所管していることから、公共図書館・学校図書館に関係する次の事業に当館が協力した。

①　新任図書館長研修

新任の公立図書館長を対象に文部科学省等が主催する研修。主会場（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）からのインターネット配信により実施されており、2019 年度まで当館は愛知県教育委員会により副会場に指定されていたが、2020 年度以降は受講者が各所属でオンラインにより受講している。2022 年度は８月 30 日（火）～９月１日（木）の３日間、各受講者へのインターネットによるライブ配信で実施された。県内の新任図書館長５人が各所属でオンラインにより受講した。

②　県立高等学校司書教諭研修会

学校現場で読書活動を担当する司書教諭のための研修会。2022 年 10 月７日（金）に当館５階の大会議室で開催された。当館は会場を提供するほか、講師として職員（２人）を派遣し、ＹＡサービスについて講義を実施した。参加者 50 人。

③　学校図書館関係職員研修会

県立学校図書館における図書館資料の利用に従事する事務職員、実習教員を対象に実施する研修会。2022 年 10 月 26 日（水）に当館５階の大会議室で開催された。当館は会場を提供するほか、講師として職員（１人）を派遣し、高校支援サービスについて講義を実施した。参加者 38 人。

④　愛知県子供読書活動推進大会・高校生ビブリオバトル愛知県大会

愛知県子供読書活動推進大会の一環として、高校生ビブリオバトル愛知県大会の決勝及び愛知県子供読書活動推進大会講演会が 11 月３日（木・祝）に当館５階の大会議室で開催された。当日は、予選を勝ち抜いた高校生６人によるビブリオバトルの決勝が行われた後、愛知県在住の児童文学作家山本悦子氏による講演会が開催された。当館は会場を提供するほか、図書の展示、当館職員による「愛知県図書館の紹介」を行い、大会運営に協力した。参加者 72 人。

当館は、以上のような県教育委員会の学校図書館振興や子供読書活動推進に係る事業に協力するほか、高卒資格を取得していない方などのために学び直しの機会を提供する県教育委員会の「若者・外国人未来応援事業」にも、生涯学習の場と機会を提供するという図書館の立場から、会場を提供するなど協力している。

３　関係団体

①　愛知県公立図書館長協議会

愛知県公立図書館長協議会は、1968 年、県内公立図書館相互の連絡と図書館活動の推進を図ることを目的に設立された。2023 年４月１日現在 69 館（図書館設置の県市町村及び名古屋市分館）が加入しており、図書館業務に関する研修会、調査等の事業を実施している。同協議会には、ヤングアダルト（Young Adult：ＹＡ）サービスに関する情報を広く収集し周知することを目的としたＹＡサービス連絡会と、公立図書館のネットワークに関する諸問題を検討することを目的とした図書館ネットワーク研究会が設置されている。

2022 年度、ＹＡサービス連絡会では、例年開催している図書館職員向け研修会を集合研修及び同時・録画配信で実施するとともに、ＹＡ向けブックガイド『ティーンのための Aichi Librarians’

Choice A・L・C（あるく）』第10号を作成、公開した。また、図書館ネットワーク研究会では、県内図書館が同一のテーマで展示やイベントを行う「@（アット）ライブラリー」事業を実施した。2022年度のテーマとして選定した「鉄道！」（日本の鉄道開業150年を記念して選定）には 33館が参加し、39イベントの登録、「徳川家康～ドラマ放送記念！」には32館が参加し、43イベントの登録があった。

②　愛知図書館協会

愛知図書館協会は、1950年に図書館事業の進歩発展を図り、教育と文化の振興に寄与することを目的に設立された。日本図書館協会の団体会員でもある。主な事業は県内図書館職員・関係者向けの研修会の企画・実施である。機関誌として『愛知図書館協会会報』（1950.1～）を発行している。

会員には、施設会員、個人会員及び賛助会員の３種がある。2023 年４月１日現在、施設会員 94機関、個人会員70人及び賛助会員９団体が加入している。

③　東海北陸地区公共図書館協議会

東海北陸地区における公共図書館事業の振興及び相互の協力を図ることを目的としており、東海北陸地区６県の県立図書館と１政令指定都市（名古屋市）の図書館が加盟している。主な開催事業は､加盟館の館長が参加する会議と、東海北陸地区の公共図書館職員を対象とする公共図書館研究集会である。2022年度には、館長会議を９月29日（木）にオンラインで行い、研究集会を2022年11月11日（金）に名古屋市の担当により集合研修及びオンライン同時配信で開催した。

④　東海地区図書館協議会

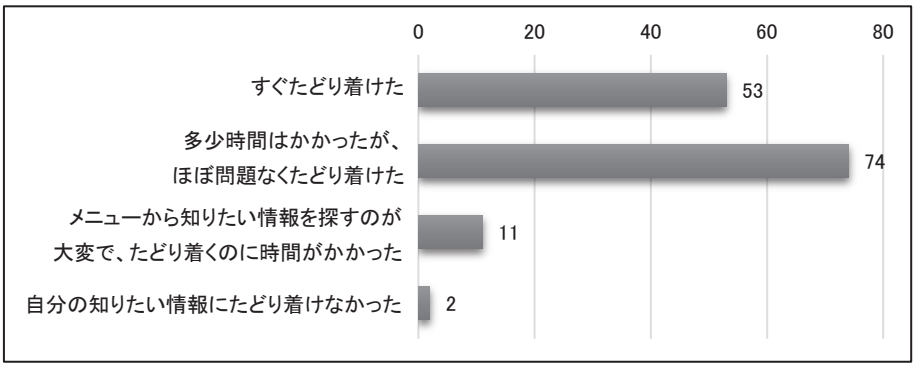
愛知､岐阜､三重､静岡県の公共図書館と同県に所在する大学図書館の館種を超えた連携･協力を進めるため、2004年11月１日に設立された。事務局を名古屋大学附属図書館に置いている。現在の参加館数は87館（公共63館、大学24館）で、当館は公共図書館の理事館５館の一つである。

Ⅶ　2022年度アンケート

１　Webサイト利用状況アンケート

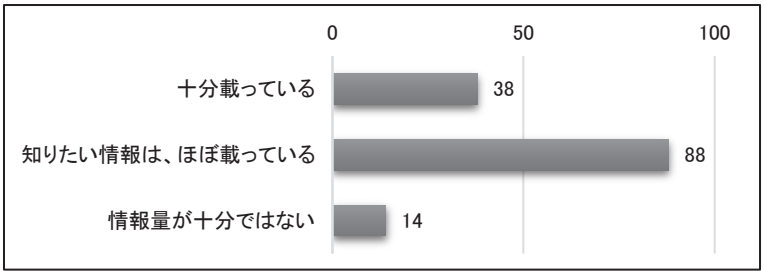
当館の Web サイト（ホームページ）について、今後のサービス向上の参考にさせていただくため、2022年12月15日から2023年１月31日までWeb上でアンケートを実施し、140件の回答を得た。結果については、Web サイト「県図書館の発行物」（https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html）に掲載している。Webサイト上の情報へのアクセスのしやすさや情報量、2022年11月１日から 2023 年１月 31 日まで実証実験を行ったチャットボットを利用した感想等を尋ねた結果の概要は、次のとおりである。

①　自分の知りたい情報にすぐたどり着けたか



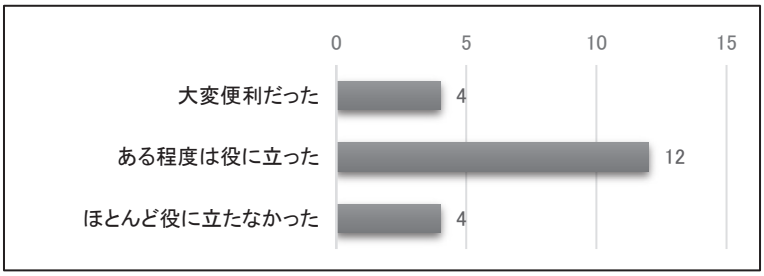
「多少時間はかかったが、ほぼ問題なくたどり着けた」が 74 件（52.3%）で最も多く、次いで「すぐたどり着けた」が 53 件（37.9%）であった。全体の約９割の人が、あまり問題なく知りたい情報にたどり着けている。

② 自分の知りたい情報が十分載っているか



「知りたい情報は、ほぼ載っている」が 88 件（62.9%）で最も多く、次いで「十分載っている」が 38 件(27.1%)であった。全体の９割の人が、情報量に大きな問題はないと考えていた。

③ 実証実験中のチャットボットを利用した感想（利用したことがある方からの回答）



「ある程度は役に立った」が 12 件（60%）で最も多く、次いで「大変便利だった」が４件（20%）であった。チャットボットを利用した人の８割が一定の評価をしている。

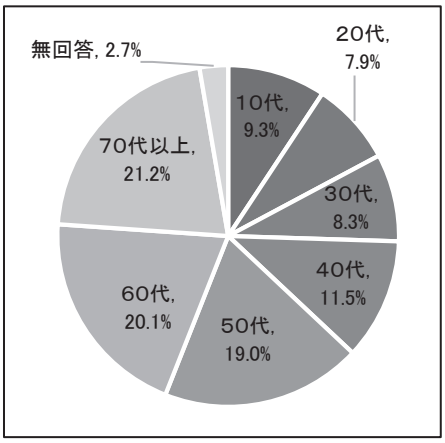
④ 当館の Web サイトで改善して欲しいこと（自由記述）

記述内容	回答数
蔵書検索機能の改善	9
掲載情報の充実	7
スマホでの見やすさ（レスポンシブデザイン化要望等）	4
現在の使いやすさを評価	4
求める情報・機能の探しやすさ	3
文字や表示の大きさ	2
開館日・開館時間の明確化	2
Ｍｙライブラリ機能の改善	2
データの更新頻度	2
チャットボットの位置等	2
その他	7
特になし	3
Web サイト以外に関する意見	6
計	53

２ 来館者アンケート

当館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、2005 年度から来館者を対象にアンケートを行っており、2022 年度は 2023 年２月 17 日（金）と 18 日（土）に実施した。２日間で 987 枚のアンケート用紙を中学生以上の来館者に交付し、636 枚回収した。結果については、Web サイト「県図書館の発行物」(https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html) に掲載している。来館者、利用頻度、来館目的及びサービスの重要度と満足度の概要は、次のとおりである。

①　来館者

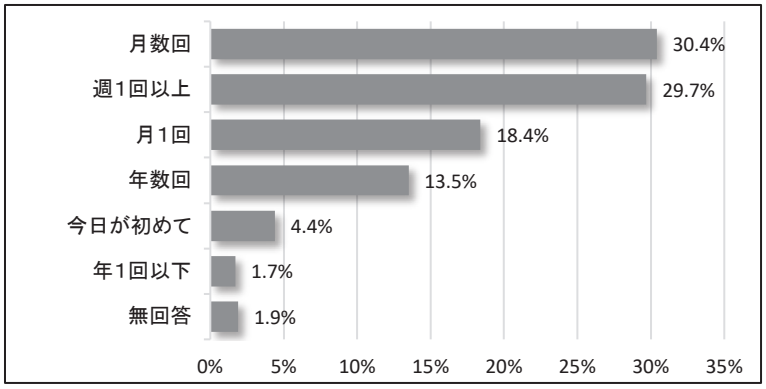


来館者　年代別

来館者の年代別では、70 代以上の割合が最も高く、21.2%である。次いで 60 代 20.1%、50 代 19.0%、　40 代 11.5%と続き、60 代以上が来館者の約４割を占める。最も少なかった年代は 20 代で 7.9%であった。

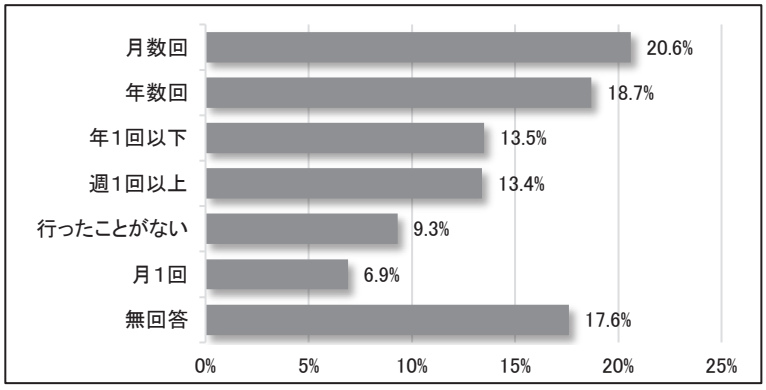
職業別では、「お勤めの方」の割合が最も高く 43.8%、次いで「無職」が 30.5%であった。学生（中学生・高校大学生・大学院生）の割合は 12.5%で、2021 年度に比べ 1.1 ポイント増加した。

②　利用頻度



県図書館の利用頻度

県図書館の利用頻度は、「月数回」の割合が 30.4%で最も多く、次いで「週１回以上」が 29.7%「月１回」が 18.4%「年数回」が 13.5%と続く。月１回以上利用する人が全体の約８割であった。一方、地元の図書館の利用頻度は、「月数回」が 20.6%で最も多く、次いで「年数回」が 18.7%、「年１回以下」が 13.5%であった。



地元の図書館の利用頻度

また、県図書館の利用頻度別に地元図書館の利用頻度を見ると、月１回以上県図書館を利用している人の４割以上が、月１回以上地元の図書館を利用している。県図書館と地元の図書館の両方を利用して、使い分けている様子がうかがえる。

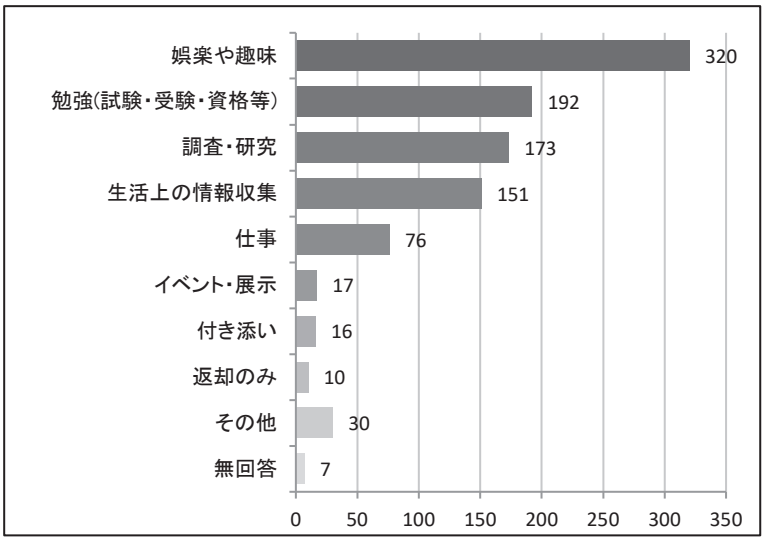
なお、地元の図書館ではなく県図書館を利用する理由、地元の図書館と併用する理由を見ると、「職場や自宅に近い、交通の便が良い」、「蔵書が多い、本の種類が豊富」、「地元の図書館と使い分けている」という意見が多い。また、「専門書、地域資料、新聞・雑誌が充実している」、「広い、環境が良い、落ち着いて利用できる」、「閲覧席が多い」、「県図書館にしかない資料を利用するため」などの意見もあり、当館の特徴が活かされていることが分かる。

「地元の図書館ではなく県図書館を利用する理由」または「地元の図書館と県図書館を併用する理由」（自由記述）

記述内容	回答数	記入人数
職場や自宅に近い、交通の便が良い	78	321※
蔵書が多い、本の種類が豊富	69	
地元の図書館と使い分けている	61	
専門書、地域資料、新聞・雑誌が充実している	42	
広い、環境が良い、落ち着いて利用できる	41	
閲覧席が多い、席を利用している	33	
県図書館にしかない資料を利用するため	10	
飲食ができる	8	
サービスがいい、運営がしっかりしている	5	
貸出期間が長い	4	
CD、DVD など視聴覚資料が豊富	4	
調査研究に適している	3	
開館時間が長い	3	
レファレンスを利用する	2	
資料が探しやすい	2	
その他	31	

※ひとつの記述の中に１～３件の内容が含まれており、内容ごとに回答数を集計したため、
回答数と記入人数は一致しない。

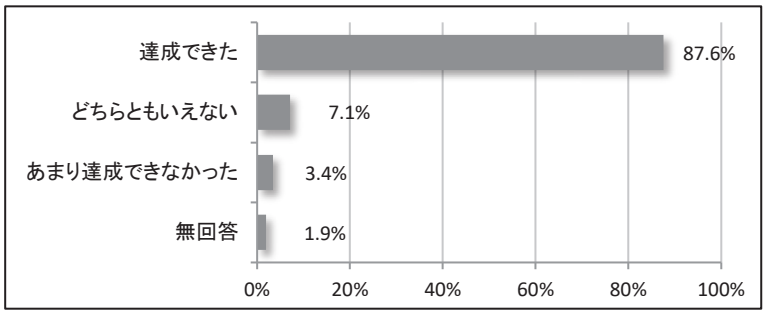
③　来館目的（複数回答可）



来館目的

来館者全体でみると「娯楽や趣味」が第１位で全体（992 件）の 32.3%（320 件）を占める。次いで「勉強」、「調査・研究」、「生活上の情報収集」と続く。

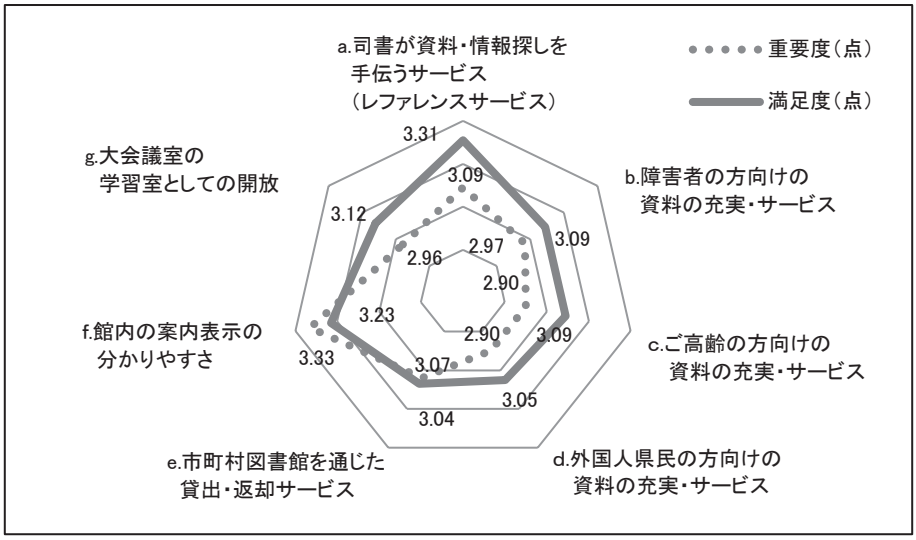
年代別でみた来館目的の特徴的な回答は、20 代以下は「勉強」の割合が高く、30 代以上は「娯楽や趣味」が第１位となっている。「調査・研究」が 20 代以上の各年代で上位に位置しており、県図書館が来館者の課題解決の場として機能していることがうかがえる。



目的の達成度

なお、「来館の目的を達成されましたか」という項目については、87.6%が「達成できた」と回答している。

④　サービスの重要度と満足度　＊4段階評価（中心値は2.5）

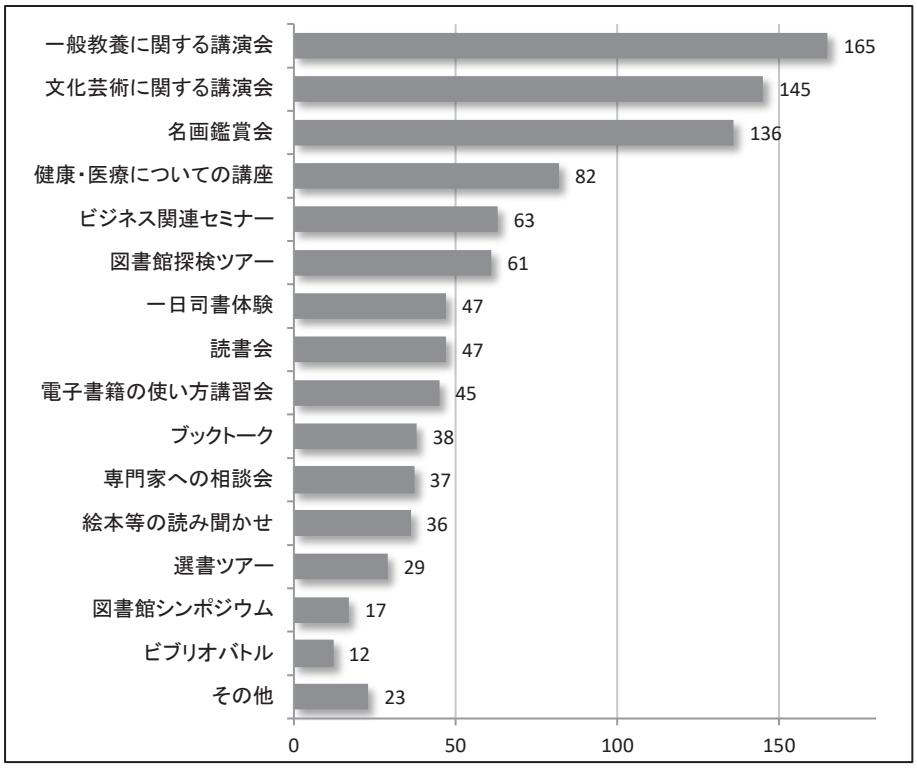


サービスの重要度と満足度

重要度が最も高かったのは「館内の案内表示の分かりやすさ」で3.33点、満足度は3.23点で、さらに改善していく余地がある。

一方、「レファレンスサービス」は、重要度3.09点に対して満足度が3.31点で、重要度に比して満足度が高い結果となった。

⑤　愛知県図書館のイベント開催についての要望（当てはまるものすべてに〇）



愛知県図書館でのイベントの開催について

イベント開催について、要望が最も多かったのは「一般教養に関する講演会」で、次が「文化芸術に関する講演会」であった。この二つで全体（983件）の31.5%（310件）を占める。このほか、「名画鑑賞会」、「健康・医療についての講座」、「ビジネス関連セミナー」など、様々なイベントが挙げられている。